



現在の正面エントランスは後年建てられた味気ないものだが、背後に創建当時のメイン棟が現存する



二階建ての客室建物は奥に広がり、中庭に続くクラシカルなコリドーは時代の匂いが溢れている



"North Garden"と呼ばれる広い中庭。ヴィクトリア様式の面影が残る外観は今もスラバヤで優美な姿を見せている



筆者 小原 康裕

ホテルジャーナリスト  
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。

[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)

現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。

## ホテル マジャパヒ、スラバヤ Hotel Majapahit, Surabaya

[www.jhrca.com/worldhotel?cat42](http://www.jhrca.com/worldhotel?cat42)

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



白亜のコロニアルホテルは1911年、宗主国オランダのオレンジ公に因んだ名称で「Oranje Hotel」として開業した。一時期、マンダリンオリエンタルの傘下に入ったが、現在は「Hotel Majapahit, Surabaya」の名称である



芝生に囲まれたオープンエアのスイミングプールのラウンジ



スパ施設「The Majapahit Spa by Martha Tilaar」のラウンジ



レセプションデスクの背後には創業当時の「Oranje Hotel」の写真が掲げられている



メインダイニング「Sarkies Restaurant」は1920年代の上海租界地をイメージした内装だ



"North Garden"に面した「Presidential Suite」。東南アジア最大級 806㎡の部屋面積を誇る



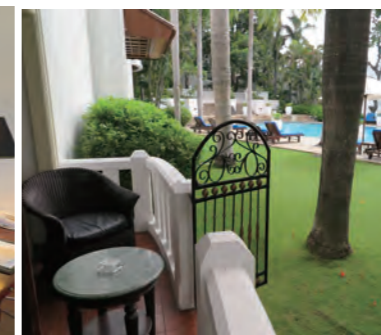
コロニアルの雰囲気最大限生かされたステアケース



97㎡の広さを持つ「Majapahit Suite」のベッドルーム。同じ大きさのリビングルームを隣室に持ち、スパのスイミングプールに直接出られるバルコニー付きのスイートだ



リビングルームのゆったりとしたシッティングエリアとライティングデスク



付随したバルコニーから直接に芝生のガーデンとプールに出られる

黎明期に於けるアジアのホテル建設に大きな役割を果たしたサーキーズ兄弟は、東南アジアに4軒のコロニアルホテルを残している。シンガポールの「Raffles」を始め、パナマ島の「Eastern & Oriental」、ヤンゴンの「The Strand」、そしてスラバヤの「Majapahit」である。白亜のコロニアルホテルは1911年に「Oranje Hotel」として開業した。宗主国オランダのオレンジ公に因んだ名称で、ヴィクトリア様式の面影が残る外観は今もスラバヤで優美な姿を見せている。一時期、マンダリンオリエンタル・グループの傘下に入り、「Mandarin Oriental Hotel Majapahit」となったが現在は提携を解消し、「Hotel Majapahit, Surabaya」の名称である。

ホテル名の「マジャパヒ」とは、14世紀前後にインドネシアで強大な勢力を誇った「マジャパヒ帝国」の名前に由来している。ホテルは第二次世界大戦当時、日本軍に接収され「ヤマトホテル」と呼ばれたが、日本の敗戦後、勝利したオランダ軍がホテルの屋根の上にオランダ国旗を掲げた。インドネシアが独立を宣言して間もないスラバヤ市民はこれに怒り、ホテル屋上に翻っていたオランダ三色旗の青い部分を引きちぎり、赤と白のインドネシア国旗とした最初の国旗掲揚の瞬間であった。マジャパヒはインドネシア最大の歴史イベントの舞台となった場所でもある。

現在の正面エントランスは後年建てられた味気ないものだが、背後に創建当時のメイン棟が現存する。二階建ての客室建物は奥に広がり、中庭に続くクラシカルなコリドーは時代の匂いが溢れている。筆者にアサインされた部屋は97㎡の広さを持つ「Majapahit Suite」で、芝生に囲まれたプールに直接出られるバルコニー付きのスイートだ。メインダイニング「Sarkies Restaurant」は1920年代の上海租界地をイメージした内装で、スラバヤ屈指の中国料理店として評価が高い。なお、朝食は階下のオールデイダイニング「Indigo」で提供される。スパ施設「The Majapahit Spa by Martha Tilaar」はヘルスクラブ、ジム、芝生のアウトドアプールなどを擁した質の高いものである。

マジャパヒはサーキーズ兄弟の長男マーチンの子供、ルーカス・マーチンによって建設された。前述の4軒のホテルの中でシンガポールのラッフルズに極めて似た造りである。アールデコ様式のインテリア、アンティーク家具など、この場所だけは昔と変わらぬ時を刻んでいる。中庭に面して長く続く回廊を歩いていると、ホテル建設に夢を掛けたサーキーズ兄弟の情熱が伝わって来るようだ。

